

ウオッチング 多摩ニュース

第82号

2017年7月3日

ウオッチング多摩の会

立ち止まって

考えている！

市議会・行政
前進に向けて

パルテノン多摩 80億円の

大規模改修計画

パルテノン多摩改修の80億円は、市民感覚としてとても受け入れがたいものでした。耐えがたきを耐え「公共施設の縮減にご協力を！」と切々と訴える行政の姿と違って変わって大盤振る舞いのこの方針には不安を抱くのは当然でしょう。公共施設のあり方は、建設から40年経過し一斉に改修を迎えるニュータウンに住む市民にとって、「財政が厳しいのなら削減に協力したいが、私たちの生活はどうなる？ どうすればいい？」と身を切るような切実な問題です。

何とか、私たちの声を届けたいと、市議会

議員のみなさんともども市当局に働きかけ、市側もこれを受け入れました。

議会の特別委員会は「パルテノン多摩・周辺施設整備等特別委員会」として名称も新たに5月リスタートしまし

た。
名称にパルテノン多摩だけでなく、周辺施設等（パルテノン多摩・中央図書館・中央公園）を入れたことはとても意義深いものがあります。この計画の中に新市庁舎が含まれないことは、多摩市のこれからの考えると、木を見て森を見ないことになりかねず大きな禍根を残すこととなります。6月定例議会で藤原委員長から中間報告があり、委員会として今回の検討から新市庁舎を外すことが委員8名中7対1で決定しました（入れるべきと主張した委員の主張を是非お聞きしたいものです）。

施設計画の見直しに

新市庁舎が入らない！

新市庁舎計画では10年以内とされており、今回具体的な検討をしなくても多摩市が避けて通れない施策です。新市庁舎は、すぐそこ

今号の特集

パルテノン特別委員会

意見交換

7ページ

・動き出した市議会。市民にオープンな議論で多摩センター地区を活性化！

にある超高齢化社会とAI時代という大転換期にその果たすべき機能を明確にした計画としなければ大きな課題を先延ばし、次世代に重荷を背負わせる結果となることは明白です。

議員のみなさん！
行政のみなさん！

オープンにね！

期待してる！

魚、いる？

ガンバッテ！



パルテノン問題は、市民と協同で明日の多摩市を作るかが問われている。

期待し見守りたい

新特別委員会のメンバーは？

特別委員会は基本的にこれまでの委員会を延長継続し、任期は平成30年3月末とされていますが、6月の議会人事でメンバーが多少入れ替わり、以下となりました。

委員長・藤原マサノリ

副委員長・大野まさき

委員・折戸小夜子、三階道夫、荒谷隆見、

小林憲一、橋本由美子、

飯島文彦、岩崎加奈子

以上9名の委員が核となり市民の声を反映し、ときの政治の都合で先延ばしをしない先見力を十分に発揮する議会を期待します。

市民の意見を聞く

新委員会との懇談会が開催

去る6月19日に当委員会からの要請で、他の活動団体(豊ヶ丘複合施設存続の会、東寺方複合館存続を考える会、聖ヶ丘図書館の存続を考える会、唐木田図書館の存続を考える会)といっしょに委員会との懇談会がありました。懇談会は短時間で消化不良ではあり

ましたが、「これからの計画には市民の意見をしっかりと踏まえる」と藤原委員長の力強いメッセージがありました。これまでの行政のやり方では懇談会が「市民の意見も十分に反映する」とアリバイ作りに利用されることがよく見受けられました。特別委員会は同じようなことに終わらないことが確信できました。

ウオッチング多摩の会のこれまでの主な活動の纏めを、以下の内容を説明しました。

1. 1年前、パルテノン多摩大規模改修へ市民の声を届ける会に向けてチラシキャンペーン「ちよつと待った! その80億円」を展開し、8月11日パルテノン多摩第一会議室で議員、副市長、市職員へ市民の声を届けた。



市民のさまざまな声を、多角的に検討し市政に反映しよう。

2. 市民2,000人へ「80億円パルテノン多摩 どう思いますか」アンケート調査を行った。

3. 市長・議長・特別委員会委員長へ「パルテノン多摩大規模改修計画意見書」を提出した(多摩サロン・多摩未来研究会・ウオッチング多摩共同)。

4. 市長へ公開質問状を提出した。

5. パルテノン特別委員会との意見交換会を開催し、5委員参加のもと24人の市民と活発な意見交換を行った。

6. 特別委員会へ市民提案を行った。

これらの結果はこれまでのウオッチングニュースで詳細を報告させていただいていますが、市民2,000人のアンケート結果として「運営の完全民営化」案が半数(45%)あり、回答者市民はその具現化の詳細については定かでもないとしても、民の力で税の投入は最小限に抑えて運営してほしいという願いが込められています(詳細はウオッチングニュース79号に掲載)。

委員のみなさんはこのアンケート結果をどう受け止めているか尋ねてみましたので、これから検討されるパルテノン多摩の運営方法には十分反映してくれるものと大いに期待しています(懇談会の様子は7ページ参照)。

**何故、いま
新市庁舎も考えるのか？**

パルテノン多摩・周辺施設といえ、パルテノン多摩だけではなく隣接する中央公園、グリーンライブセンター、さらに新設が計画されている中央図書館が想定されますが、併せて新市庁舎の計画を考慮し、多摩センター地区のコミュニティセンターも検討しなければ、多摩市の将来に不安を覚えています。

私たちは多摩市の将来を左右するような3大拠点、新市庁舎・中央図書館・パルテノン多摩(中央公園・グリーンライブセンターも含む)を合わせて構想することを市民提案として提出しています(ウォッチングニュース81号)。



多様な意見を封じ込めないオープンな議論と方針が求められている。

冷戦後の25年から見えてくるもの

個人消費の低迷と公正な分配なき経済が続き、格差が拡大。これは、労働分配率の低下、企業の海外依存体質(グローバル化)などが背景にある。

名目GDP: +21.3%、実質GDP: +22.9%に対し、現金給与総額: -0.1%、全世帯消費支出: -9.3%、可処分所得: -2.7%である。一方、企業の経常利益: +79.0%、人件費: +19.3%、設備投資: -26.0%と内部留保を拡大し、経済成長につながっていない。

21世紀に入ってから日本の家計消費構造の変化

2000年→2016年では、通信費が増加し、こづかい・交際費・食費・教養娯楽費が減少し家計消費が縮減。(単位:円/月)消費支出合計: -35,140。通信費: +3,599、衣類: -5,093、食費: -2,087、こづかい・交際費: -23,492、教育・娯楽: -10,191。

1. 日本の冷戦後の25年からみえてくるもの(多摩大寺島実郎監修講座から。抜粋左記参照)
 2. 21世紀に入ってから日本の家計消費構造の変化(同右)
- 懇談会では、今後計画や方針などを市民に提示する際、市民の感情・感覚だけではなく、データを基にその判断根拠を明らかにしてほしいという視点からその一部を提示させてもらいました。

3. 日本の総人口・65歳以上人口の割合の推移(同右、図1参照)

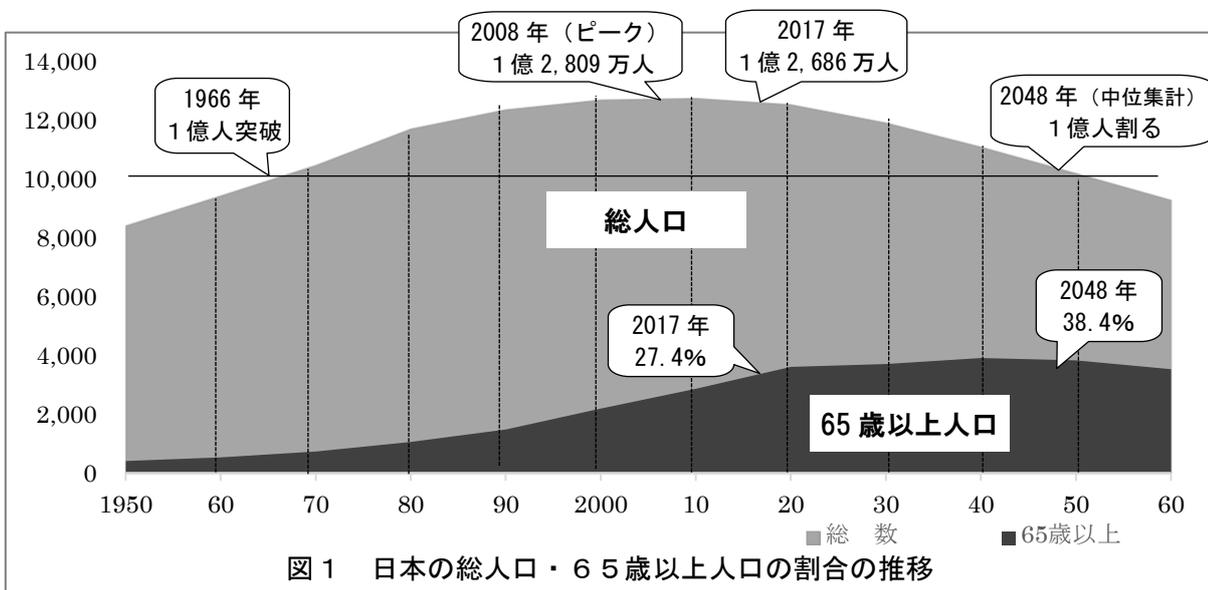


図1 日本の総人口・65歳以上人口の割合の推移

乗降客数では多摩センター駅が他を圧倒。素通りも多く、立ち寄りたくなる施設が必要。

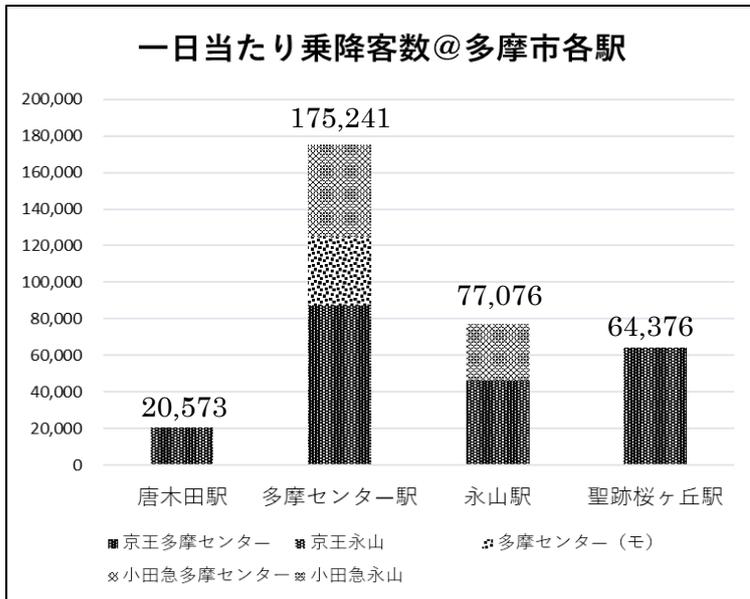


図2 一日当たり乗降客数@多摩市各駅

4. 多摩市内の鉄道駅1日当たり乗降客数 (図2参照、ウオッチング多摩の会ホームページにも掲載)
 5. 多摩市の人口動態 (図3・4参照、同右)
 多摩市の変容はもっと早いスピードで変わってゆくという現実を市民・議会・行政ともども冷静にデータで共有し、この変化に対

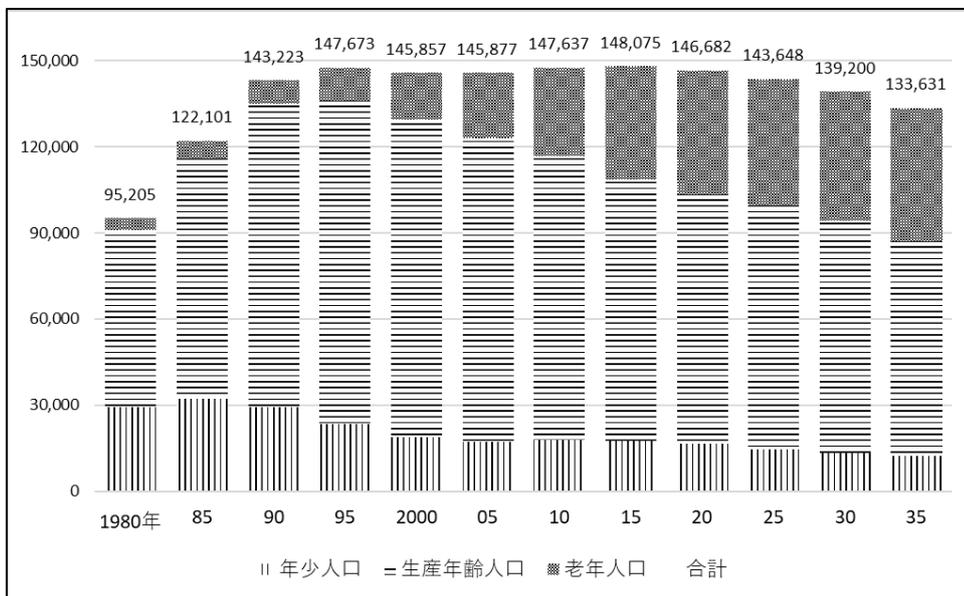


図3 多摩市の人口動態 (積算)

応する公共施設がどうあるべきかを考えることが重要です。行政が行ってきた「公共施設再配置と行動プログラム」の紆余曲折、市民の陳情・政策提案等に揺れることは、その土台と基本がしっかりしていなかったことの証左ではないでしょうか。

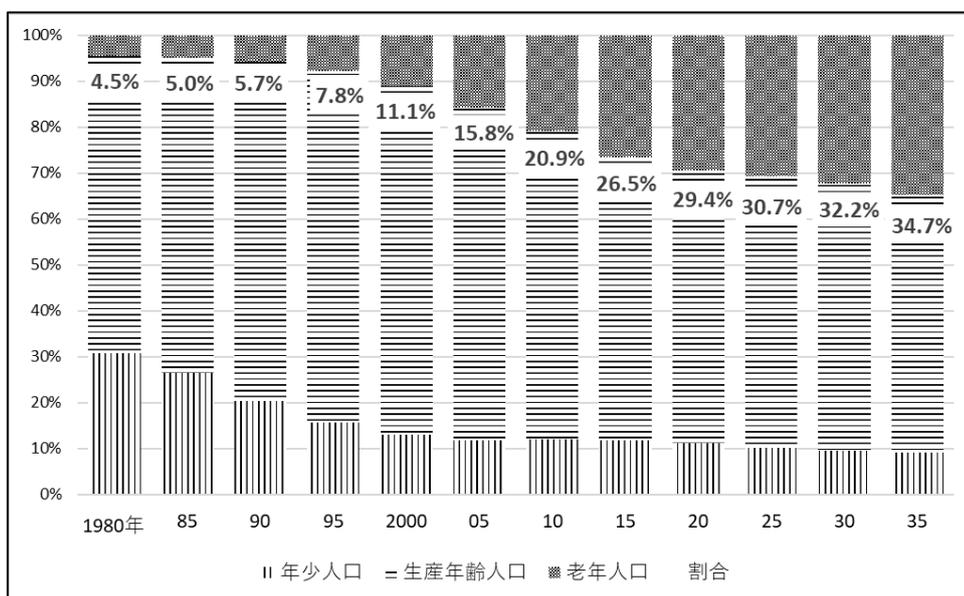


図3 多摩市の人口動態 (割合)

人口急増・高齢者比率が5%に満たない時代に行ってきた施設を、生産者年齢人口急減・高齢者比率が1/3になるこれからの時代に、建築費以上の費用をかけてこれを維持していく理由がどこにあるのだろうか？ 市政全般にいえるが、この認識を抜きにして市政は語れない。

**人の仕事が75%、AI(ロボット等)
にとって代わる時代の到来**

AI研究者の中には、2045年に人の仕事の75%がAI(ロボット等)にとって代わる時代が到来すると予言している人がいます。

2045年は28年先で、もうすぐやってきます。パルテノン多摩の改修計画もあと30年間は持ちこたえられるものを計画しているようです。中央図書館、新市庁舎建設はこれから何年先をみた建設計画となるのでしょうか。

多摩市は高齢化がいち早く進むとはいえず、団塊の世代は2045年でもまだまだ元気でしょう。次世代を担う子供たちはESD(持続可能な開発のための教育)で2050年の大人づくりの議論をしています。2045年はその前にやってくる。

2045年を迎えたときの、地域にある福祉館・図書館の存在意義を考えてみましょう。AIによるロボットで移動が用意になったとしても中央図書館まではとても難儀と思われるし、地域のお知り合いによるコミュニティはその機能の変化が求められ、AIによる歩行支援があれば気楽に行けるかもしれません。その充実こそが優先されるべきでし

よう。足りざるところはAIを駆使して機能的でコンパクトな中央図書館が優先的に検討されるべきでしょう。「知の地域創造」は大賛成ですが、多摩市のこれからの地域の実態も冷静に見つめるべきです。

今の小学生が大人になった時の図書館の利用も様変わりするのではないのでしょうか。スマホ等のIT機器を活用して情報を入力する、そんなSNS社会では図書館のあり方はどんなものとなるのでしょうか。

図書館を初めとする公共施設としてのハコモノはAI抜きに語っては時代錯誤となるのではないのでしょうか。

AIによって市役所の業務(介護・医療・



将来を見据え、データを活用し納得できる提案で市政を論じたい。

福祉など)や職員の業務内容に、質的・量的な変化が訪れます。

公的な施設もさることながら、私たち市民生活もAIによる変化が好むと好まざるとに関わらず押し寄せてきます。

ニュータウン独居老人がコンクリートブロック空間に引きこもりがちなの日々の生活に大きな変化をもたらさざらうことは想像に難くありません。

エレベーターのない中層住宅での移動や近郊のコミセンへのアクセスには、ロボットの役割が変化をもたらさざらうでしょう。



**パルテノン多摩、タマタイム跡地の
経験に何を学ぶか**

開館して30年のパルテノンは、その理念は永遠なものであったとしても、わずか30年の間に変貌したニュータウンの市民に沿うための悩みを抱えました。

また20年前に賑わいを創出し若者が集う街にと、スノーボード、ゲームセンター、わんにゃんランドなどが作られた多摩センター駅近の広大なエリアはあつという間に草莽々の空き地となり、今はIT企業のクラウドセンターが林立し(建設中も含め)つつあり全く様変わりするようです。

歴史から学べと大げさなことは言わなくとも、わずかな期間の経験からでも更新、新設の公共施設こそ大局、長期の見地からの変化に対応しうるものとしなければならぬではないでしょうか。

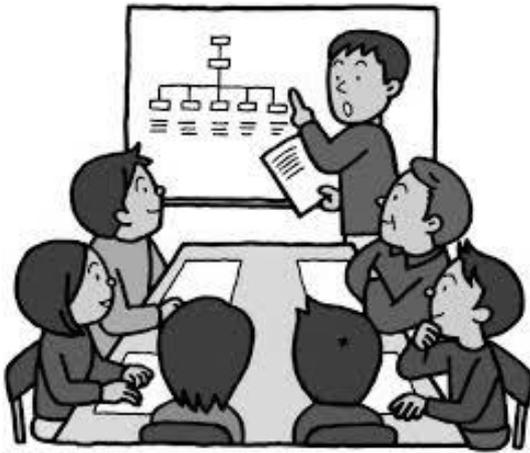
**多摩市ならではの、市役所・中央
図書館・パルテノン多摩を!**

AI時代を支えるビッグデータの基地がタマタイムの跡地に形成されることは「多摩市には何があるの」「キティーちゃんとAI

の基地があるよ」と市民の話題となるような積極的な支援こそシティーセールスとなるのではないのでしょうか。クラウドセンターは無人で無機質の館で法人固定資産税の貢献はあっても、多摩市民の雇用にはつながらないと言われますが、この関係者の往来は多摩センター駅利用となり、これから全国各地からの利用も増えるのではないのでしょうか。

2027年にリニア新幹線が開通すればこのロケーションの利便性をPRできる筈です。

多摩センター駅とタマタイムを結ぶ動線に新市庁舎が存在し、そこにAI時代の知的空間(図書館機能も併せ持つ)があつたとしてもどうでしょう。



委員会や勉強会はオープンにして、誰でも議論・検討できるようにしたい。

さらに多くの大学生乗降客の目も惹きつけ、ペデストリアンデッキ(駅と市庁舎を結ぶ通路)からちよつと寄り道したくなるような場所の創出は民間企業も魅力を感じPFI・PPPへの参画を可能にするでしょう。

市を挙げての演出で、コリアにある70万冊本を揃える丸善、パルテノン中央公園、キティーちゃんのサンリオへの誘いは、市役所の中にあり、通勤通学の動線上にあることが絶対的優位性を保つこととなります。

多摩市の公共施設の再配置・行動プログラムは、今ある施設機能を生かし中身を充実し長寿命化とし、新しく更新・新設する中央図書館、そして今すぐの建設でなくても新市庁舎は変化する多摩市、多摩市ならではの施設としての起爆財として位置づけることこそ多摩市の活性化を可能にするものではないでしょうか。

文責：ウオッチング多摩の会 神津

**市民14万人全員が
ウオッチャーであり
サポーター!**

市民と一緒に作り上げていく姿勢を!

地域施設・図書館の存続も強く要望!

パルテノン改修で市議会特別委と市民が懇談

報告

年々感えて論議が続いているパルテノン多摩の改修問題で、多摩市議会の特別委員会が6月19日、関連して問題を提起してきている市民のグループに呼び掛けて意見交換の会を議会の第一委員会室で行った。参加したのは特別委の藤原正範委員長ら9委員のほか岩永ひさか市議会議長ら5人、市民側からは豊ヶ丘や東寺方など各地の複合施設や図書館を存続させる会、ウオッチング多摩



井の中の蛙ではなく、広く市民の声に耳を傾け、公論に決すべし。

の会から20人の会合の趣旨は冒頭の藤原委員長発言によ

と「委員会はいこれから総論を絞り込んでい。そのために市民の意見を聞きたい」。1時間半という時間的な制約もあつて、「意見交換」というより市民側からの要望を特別委の委員が聞くという形の会になった。

「ハードばかり先行。ソフトの議論を」

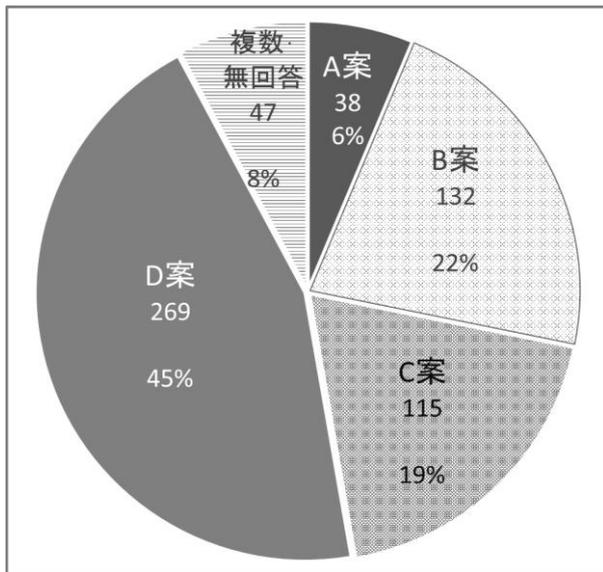
市民の方では各地の「存続させる会」からまず「豊ヶ丘複合施設存続の会」が特別委に対して疑問を投げかけた。市議会は昨年3月に改修の初期費用を含む予算案の承認に際して付帯決議をしているが、その中の「市民との情報共有、意見の反映を」という決議項目はどうなっているのか、という提起で具体的に「市民に対してヒアリングすら行われておらず計画は建物・設計などハードばかりが先行しているのではないか」という指摘だった。中身をどうするかなどソフトについて

「多くの市民から意見を聞いて目的、機能、使われ方などを検討してほしい」。そして「出来上がってからの丁寧な説明などより一緒に作り上げていくことを希望する」と総括的な要望を出した。続いて東寺方、聖ヶ丘、唐木田の「存続させる会」から、それぞれの複合施設や図書館の地域との関係や設立の経緯、存在する意味などについて具体的な話が出され、存続が強く要望された。



議会の総力を発揮すれば、市民にわかりやすい方針が出せる。期待しよう!

45%が民営化を希望



- A案 80億円コース（維持発展案・市の案）
- B案 40億円コース（縮小整理案）
- C案 16億円コース（撤去案）
- D案 運営の完全民営化コース

図5 アンケート結果



アンケート結果

ウオッチング多摩の会からはこの問題についてのこれまでの活動の報告があった。中で去年の秋、2000人の市民に対して行ったアンケート結果についてやや詳しく話した。80億円改修という市計画案も含めた4選択肢のうち、いちばん票が入ったのは「運営の完全民営化」案で45%に及んだ（「80億円」市案は6%）。この結果について報告したウオッチング多摩の会代表は「もう税金で作る時代じゃないか」という市民感覚の現れなんじゃないか」という見方を示して、これに

ついでに藤原委員長のご感想を求めた。同委員長は「妥当な結果です。そう感じる人は多いだろうと思う」。

「これが最後、ではないでしょうね」

この日の話し合いでは市民側から「市民と一緒に作り上げていくような姿勢で」という声が続り返り上がっていた。それは1時間半の会合の最後に市民側の1人が「これが（意見交換会の）最後ではないでしょうね」と藤

原委員長に念を押したことにも表れ、対して同委員長も「ええ、もちろん」と受け合っていた。

記… ウオッチング多摩の会
半田拓司

入会申込書

氏名
住所
電話・FAX
メールアドレス

■会費・カンパ振込先■

みずほ銀行多摩センター支店 1197246

「多摩市議会ウオッチングの会」

■申し込み■

「ウオッチング多摩」の会 代表 神津幸夫

〒206-0034 多摩市鶴牧3-14-2-102 042-372-9496

HP: <http://watching-tama.com/>

★入会金は必要ありませんが、会報発行等の活動維持のために年会費2000円を頂いております。